

みなさまこんにちは！新型コロナウイルスの発生から3年経過し、5月には感染症法上の5類に引き下げられます。コロナ禍になって得た発見をプラスにしながら、多職種で連携しながら日々の仕事をしていきたいと思えます。今回は、先日行われた多職種連携全体研修会の報告と、前回に引き続き病院連携室・包括の紹介をさせていただきます。

令和4年度 奈良市多職種連携全体研修会 開催報告 会場&オンラインで260名参加されました！！

基調講演：認知症世界の歩き方 ～対話とデザインの力で認知症と向き合う～
(寛 裕介氏 issue+design代表)



ソーシャルデザインの専門家である寛氏は、「認知行動」の理由を本人の視点から考え44の心身機能障害として整理し、「記憶、時間・空間、五感、注意・手続き」の4つに分類されました。今回の研修会では、私たちが一緒に体感できるように、物語調の動画を交えて紹介されました。

また、ワークシートを用いて「トイレの失敗が続いている」「道に迷う」など、よくある生活シーンを題材に認知機能のトラブルの要因を「推理」し、家族や支援者等がどのように対応するか、トラブルを解消するための「発想」「創造」する個人ワークを行いました。

困りごと

トイレの失敗が続いている。



関連しそうな認知機能障害

- 時間・空間のトラブル
 - ・時間経過の感覚の乱れ、消失。
 - ・モノや空間の奥行きを認識できない。
- 五感のトラブル
 - ・体性感覚が鈍感になる。



推理

- ?尿意・便意の感覚を感じとれなかったのでは？
- ?トイレの場所や便座の位置がわからなかったのでは？



アイデア(発想・創造)

- ★スマホのアラームや、排泄予測ツールを活用する。
- ★トイレのドアをわかりやすくする。
- ★便座にわかりやすい色のカバーをする。

参加された皆さまから、「いろいろな視点を持って認知症の方とともに考えていきたい」「それぞれの方が見えている世界観に寄添うことが大切」「本人の声を聴き、困りごとを想像し行動につなげたい」等のご意見をいただきました。

シンポジウム：多職種連携で支えるその人らしい暮らし（医師・若年認知症サポートセンター・認知症地域支援推進員）

シンポジウムでは、認知症の方や家族をどのように支えるか、それぞれの立場からお話いただきました。

専門医の立場から、認知症の危険因子、アルツハイマー型・レビー小体型認知症等の特徴、新薬のレカネマブ等について、また認知症は適切な時期に診断し治療に繋げることが大切だとしてご講義いただきました。

若年認知症サポートセンターの立場からは、若年性認知症特有の課題として、継続した就労の難しさや、利用できる地域の居場所が少ないこと、制度が増えれば狭間に居る人の支援につながらないこと等があり、様々な支援を有効に活用するためには分野を超えての繋がりが大切であると伝えられました。

奈良市認知症推進員の立場からは、奈良市の施策や推進員の業務などを説明され、本人や家族が「当たり前の日常を当たり前のように生きる」ことができるように、多職種でその人らしさをサポートしていきたいとお話されました。

多職種がお互いの役割を理解し、垣根を超えた連携が大切！

今回の研修会を通して、「本人の視点」から生活の困りごとの背景にある理由を知ることにより、「認知症との付き合い方」や「周りの環境」を変えることができること、また「病」を診て「症状」に対する医療・介護のアプローチだけでなく、「人」を見て「生活をともに創り直す」視点が大切であることを学びました。

奈良市認知症ケアパス ～知ってあんしん 認知症～

地域生活をおくるため、生活の工夫や対応方法、利用できるサービス例等をまとめたガイドブックが、認知症ケアパスです。



QRコードから奈良市ホームページへアクセス！





奈良県総合医療センターは、高度急性期・急性期医療を提供し地域の病院・診療所の後方支援を担い、医療機能の分担と連携を強化する施設として地域医療支援病院に認定されています。当院の理念「医の心と技を最高レベルに磨き、県民の健康を生涯にわたって支え続けます」を掲げ、患者支援センターでは、患者さんが最善の医療・介護サービスを受けるために地域の医療・介護サービス提供者の役割分担を明確にし、顔の見えるネットワークを構築することで「断らない」切れ目のない医療介護サービスを提供することを目的として活動しています。患者支援センターは、地域医療連携室・入退院支援室・患者サービス推進室3つの部署で構成されており、各部署の概要を紹介させていただきます。

●地域医療連携室

各診療科の診察予約、当日以降の他院からの転入調整、転院・退院・療養支援に関する業務、登録医の管理、医療講座・公開講座の開催

●入退院支援室

外来受診後、入院オリエンテーションや書類の説明
入院に際して患者さんの情報を聴き取り、多職種と連携し入院に対する準備やご不安等の対応

●患者サービス推進室

医療相談(セカンドオピニオン・医療に関する情報公開<カルテ開示>)
患者アンケート・ロビーコンサート等の実施



★患者支援センター窓口にて 診断書・各種証明書の申し込み・相談

奈良県北和地域の拠点病院として、また、がん診療連携拠点病院としての役割を果たすべく地域の医療機関と当センターの橋渡し役を担っていきたいと思っておりますので、今後もより一層のご支援、ご指導をお願い致します。

包括紹介コーナー

三笠地域包括支援センター



奈良市三笠地域包括支援センターは、三笠中学校区(大宮・佐保川・椿井・大安寺西地域)を担当しています。三笠地域包括支援センターの担当する地域は、JR奈良駅や近鉄奈良駅という主要の駅があり、奈良県庁や奈良市役所、中央郵便局などの機関が多くあり便利な地域にあります。それと同時に世界遺産や重要文化財を多く有する世界的な観光都市の中心部であり、景観保存地区に指定されている地区もあるので、細い路地や昔ながらの町屋長屋も多くあります。高齢者人口約11,000人、後期高齢者人口は約6,000人、高齢化率は平均27%になっています。

私たち三笠地域包括支援センターでは、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、高齢者の皆様の介護・保健・福祉・医療などをサポートできるよう日々取り組んでいます。いきいきと生活できるように身近な場所でご近所さんと一緒にできる介護予防の取り組みのお手伝いや、認知症を知り認知症の方やその家族を見守る「認知症サポーター」の養成講座なども行っています。近年のコロナ禍で対面でのイベントや講座などが制限される中、オンラインなどを活用して活動を継続してきました。

少しずつ皆様に直接お会いして活動を行えるようになってきましたので、これからも引き続き積極的に活動を行っていきたく思っています。



★ 連携ニュースレターは、当センターHPお知らせコーナーに掲載しています。 <http://nara.med.or.jp/nara-city/>